

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	門脇 辰彦
		発行人	福田 勝洋
		印刷所	株式会社 クイックス

2002年の春

名古屋大学農学部同窓会名誉会長 並河 鷹夫 (農学部長・大学院生命農学研究科長)

卒業・修了を迎えられた皆様へ

農学部・大学院生命農学研究科を卒業、修了された皆様、心より門出をお祝い申し上げますとともに、農学部同窓会への加入を熱烈歓迎いたします。本同窓会への加入を機に、国内外の様々な社会、産業、機関などで活躍している先輩会員諸氏との交流と連携、そして母校の教職員・学生との相互支援と親睦を一層深めていただき、この大きな輪を皆様のかげがえのない人生に大いに活かしていただきたいと思います。

名古屋大学には大学全体としての同窓会がありませんでしたが、各学部同窓会等を結集し、本年6月末に「名古屋大学同窓会」が発足することになりました。名古屋大学と社会との相互連携や交流が一層力強く展開されていくことと確信しております。

ここに同窓会報「セコイア通信」を通して、改めて皆様方の卒業・修了をお祝い申し上げますとともに、農学部同窓会への加入を心より歓迎いたします。

同窓会会員の皆様へ

名古屋大学農学部同窓会会員の皆様、お元気ですか。それぞれの分野で御活躍のことと拝察し、お慶び申し上げます。2001年度は本農学部にとって特別の年であ

りました。新世紀とともに本農学部は満50歳の誕生日を迎え、創立50周年を記念して各種事業を行いました。皆様の格別のご支援と協力を賜り、本農学部の歴史を辿り、将来を展望するにふさわしく、全ての事業計画を完行できました。改めて厚くお礼申し上げます。

この3月末をもって、大学院生命農学研究科附属農場吉田重方教授、応用生命化学講座今井忠良教授、応用遺伝・生理学講座奥村純市教授、分化情報制御講座佐々木幸子教授が定年退官を迎えられました。この4名の先生には思い出深い会員の皆様も多いことと思います。各先生方は、それぞれの専門分野での卓越した教育研究活動における功績はもとより、管理運営や教育研究施設整備においても一貫して尽力され、農学部・生命農学研究科の歴史に不朽の足跡を残されました。去る2月5日には、各先生方から農学部大講義室において退官記念講演を賜り、先生方の自信に満ちた潑刺としたお話しに大きな感銘を受けました。ここに先生方の益々の御健勝を祈念致しますとともに、今後とも農学部・生命農学研究科への叱咤激励を惜しまれぬようお願い申し上げます。

農学部同窓会の皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

新たな飛躍を

同窓会会長 福田 勝洋

同窓生の皆様にはお変わりなくそれぞれの分野で活躍のことと推察申し上げます。この春、名古屋大学農学部・生命農学研究科では178名の学部卒業生、168名の修士、36名の博士修了者を送り出します。昭和30年に第1回卒業生21名を送り出してから、総計6,000名を越える卒業生、修了生が世に出たこととなります。

今春の卒業生、修了生の中には更に大学院進学、後期課程進学あるいはポスドクとして大学に残る人もいますが、それぞれに新しいスタートとなります。特に大学を去り社会に出ていく人たちにとって、現在の日本は、高度成長時代は遙かな昔で、停滞した困難な状況下の社会の中に踏み出して行くこととなります。大学の肩書きでなく本当の実力が問われると言う意味では、厳しいけれど良い時代と考えるべきかも知れません。大学で学んだことを基礎として、実力をつけ、必

要とされる人材に成長されますよう期待します。長い人生の中で、大学で学んだ期間は非常に短いものでしかありませんが、これほど意味のある期間は今後の人生でも少ないと思います。同窓生の皆様は名古屋大学での学生時代にどのような思いを抱かれるでしょうか。学生時代への思いは各人各様ですし、思い返した時のその人の状況によっても異なることでしょう。過去を振り返ることもなく仕事に邁進されている方も多いと思います。時には学生時代を振り返り、大学まで足を運んでキャンパスを散策されるなど如何でしょうか。また同窓会への忌憚のないご意見など伺いたいと願っております。

2002年春に卒業、修了される方々の新たな飛躍と、同窓生の皆様のさらなる発展を祈ります。

平成14年度名古屋大学農学部同窓会 総会、講演会、懇親会のご案内

農学部同窓会総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催いたします。総会は会員の皆さんの意見を反映する場であり、積極的なご参加をお願いします。

平成14年6月8日(土)

●総会

時間：午後1時～2時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

●講演会

時間：午後2時～4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

丸石製菓中央研究所所長 池田 衡
「新薬開発における疾患モデル動物の役割」

●懇親会

時間：午後5時～7時

名古屋大学グリーンサロン内「花の木」

同封のはがきにて出席のご返事をお送りください。総会に欠席の場合は委任状をお送りいただきますようお願い申し上げます。

退官にあたって

同窓会の皆様如何お過ごしでしょうか。私は本年定年を迎え名古屋大学を去ることになりました。振り返ってみれば名古屋大学農学部で学生および教官として合計45年間という長い間御世話になりました。ここに改めて御世話になった皆様に御礼申し上げます。

入学した頃の名古屋大学はタコ足大学と呼ばれ、農学部は安城にあった。農学部進学後卒論の為に数ある研究室の中から家畜飼養学教室を選択した。当時教授は欠員で、海外留学より帰られたばかりの田先威和助教授が世界と対等に研究を進める為に、大動物ではなく、地の利もある家禽を中心に今まさに研究を進めていこうという時であった。まだインスタントラーメンが開発された頃で、日本にマイカー時代が来るとは考えていなかった貧しい時代でもあったが、寝食を忘れて研究は如何にあるべきか、人生は如何にあるべきかを議論して研究に打ち込んだことが懐かしく思い出される。これからの研究は国際的でなければならないと言う先生の教訓で、修士論文の成果を国際誌に投稿できたのは、その後世界の研究者と親交を深め、議論する土壌をつくる出発点となった。英国留学では Marie E. Coates 博士というすばらしい指導者に巡り会った。この出会いは、その後の研究者としての幅を広げ成長させて貰う大きな力となった。これまでの海外渡航は62回あり、学会出席、講演、講義などで世界各国をまわり多くの知己が出来たのは何よりも貴重な財産とな

奥村 純市

り、国際化に多く貢献できたと思っている。また国際学会を日本で開催する組織委員も何度か経験したが、中でも名古屋で開催した第18回万国家禽会議と委員長



としてアジア経済危機の中で行った第6回アジア太平洋家禽会議が懐かしい。後者では、準備が軌道に乗り始めた頃にアジアの経済危機が始まり、参加者の多くが国情により海外出張が出来なくなりその対応にずいぶん苦勞した。また開催資金集めも困難を極めた。しかし結果的にこの国際会議は大成功をおさめ、多くの方々のご協力により会計も相当の黒字となり、会長を務めていた日本家禽学会に寄付できたことは望外の喜びとなった。

教官としては多くの有為な青年達と共に切磋琢磨して研究し、論文を発表したことが懐かしく思い出される。その後多くの方が社会のそれぞれの地位で活躍しておられるのも頼もしい限りであり、数々の場面でご指導ご鞭撻を頂いた。ここに記して感謝申し上げます。また、名古屋大学農学部出身者のこれだけ多くが大学教授となるとは、我々の学生時代では考えもおよばなかったものでご同慶の至りである。

生命農学研究科・農学部が益々ご発展されることを祈っています。

大学生活を終えるに当たって

高校時代に漢文を教えていただいた恩師が名古屋大学文学部中国文学の助手となって赴任されたことに触発されて、昭和35年春に当時、最も速度の速かった国鉄の比叡号に乗って神戸から来たのが、名古屋での生活の始まりです。私には文学的素養が微塵もなかったことや、高校卒業後、しばらくの間、親戚宅で居候をしながら農業の手伝いをしていたこともあって、身近に感じていた農学部へ入学しました。

滝子での単調な教養部時代には度々下宿変え（最も短いものでは朝に決めて、夜に出たこともあった）ばかりしていましたが、安城の学部に進学したあとは下

吉田 重方

宿にも恵まれ、教務学生掛も親切と、教養部とは大きな落差を感じていました。学部では植物栄養学及び肥料学研究室に所属して卒論研究にとりかかりましたが、研究が思うように進まず、悔しい思いばかりで、研究をやったという充足感にひたることはできませんでした。

そのような物足りなさが大学院への進学を駆り立てたような気がします。大学院では「マメ科植物の根粒



着生」についての研究に従事し、後期課程への進学を指導教官であった谷田沢道彦先生に勧められましたが、年限内で学位を取得する自信もなかったこともあり、在学中一度も出向いたこともなかった当時の東郷村にあった東郷農場の助手として就職しました。当時、農場は3農場（豊川農場、安城農場、東郷農場）を東郷農場に統合した直後であり、教官も技官と一緒に圃場に出て、圃場整備や栽培管理に汗を流し、週に1回の学生実習をこなすことが主な職務でした。農芸化学出身のため、正式な農場実習を習得していない私にとっては生産現場を経験できた貴重な期間であったことを

今頃になって実感しています。

その後、農場長になられた故、宗像 桂先生が生産農場から研究農場への脱皮と耕地利用学、草地学研究室の学内措置による開設に努力され、ようやく研究のできる態勢が整い、私も修論研究を進展させ、ライフワークとなったマメ科植物の共生窒素固定研究を始めました。そのような状況でしたので学位の修得も東山で研究生生活をしてきた人達に比べて大きく遅れましたが、生産現場と密接に関わりながら長年にわたり研究生生活を過ごせたことを幸いに思っています。長い間、お世話になり有り難うございました。

発展を期待して

旧称生化学制御専攻分化遺伝制御講座の今関英雅教授の後任として、1995年に農学部へ赴任し、7年間勤め、定年を迎えました。それまでは京都大学農学部の助手として、28年間、研究と教育に従事していました。大学卒業以来約40年間「秩序ある男社会」で暮らし、女性も遜色なく研究人生を全う出来ることを示し、若い研究者にエールを送れたと思っています。人間は理念に合わせて行動出来ないで、各女性研究者が腕を磨き、良い仕事をするのが最も大切と思い、私は精進してきました。男女平等が唱えられてから約50年後に、女性を教授としてここに迎えていただき、本当に嬉しく思いました。定年まで、7年あったことは幸運でした。女子学生が30%を占める昨今、彼女等に夢と希望を与え、その能力を引き出すことが大学の教育と研究に携わる側の使命のひとつだと思います。

私の専門分野の植物科学、特に生化学・分子生物学については、世界をリードする研究がここ名古屋大学には多々あり、それを育てて来られた諸先輩、現役の方々に敬意を表します。以前よりここが憧れの大学だったので、赴任して活発な方々と研究に動かし交流で

佐々木幸子

きたことは、大きな喜びでした。さまざまな局面で、しがらみが少なく、また自由に考える人が多い組織であることを体験しました。歴史が短く、若いせいでしょう



うか？暖かく迎えていただいたことに感謝しています。生命科学の多岐にわたる進歩を、把握し理解することが楽しみだった日は過ぎ、進歩に歩調を合わせるのが億劫になって来たこの年に、定年を迎え、ホッとしている次第です。細かな規則を守ったり、妥協したり、さまざまな競争に勝つことがつらくなったのです。ハングリー精神がドライビングフォースであったわれわれの世代は、貧乏な時代から追いつき追い越せと努力し、研究のレベルを向上させ、一流の研究者を輩出するまでになり、その役割を終えました。今後はこのような恵まれた環境の中で、さらに意味のある研究と教育を若い世代の方々がされることを期待しています。生命科学の分野に多額の国家予算が投入されている昨今、農学部がますます発展することを祈っています。

「青春」の輝きの中で

私は昭和13年飛騨の山村に生まれました。日本は無謀にも中国大陸から太平洋へと戦線拡大を図ろうと試みていた時代であります。私たち「幼年戦後派」にとって飢えと貧困からの脱出が課題であり、私にとっては農作業の手伝いが生活の主要な部分を占めていたように思います。私はこれらの体験から、子供ながら日本の農山村における農業の実態を知り、軽率にも農業からの逃避を企て、名古屋大学理学部に入学したのです。

昭和39年理学研究科博士課程を中退して、同教養部助手として奉職し、平成5年教養部廃止にともない、農学部の一員として移って参りました。37年余りの教員生活の中で最も印象に残っていることのひとつは、一部学生による「教養部封鎖」であります。若輩の私は大学管理のあり方とか教育の原点などに対して深い考えも確信も無しに過ごしていたことを大いに反省させられました。一方、担当した化学実習では塩化アンモ

今井忠良

ニウムの煙の中で試薬を探しあぐねている学生、ガラス細工で火傷してとまどっている学生、ビュレットの目盛りを一所懸命に読みとろうとしている学生等々、不慣れではあるが初々しく、真摯な実験者としての姿が印象的でありました。老練の先生が「実習室の雰囲気は何学部のクラスであるのか当てられますね」と言われたことがあります。それは確かで、農学部の学生はゆっくりと、着実に、授業時間をすぎても遅くまでがんばるといった傾向がみられました。同じ性格の私としては怒るに怒れず、長時間つき合ったこともあり



農学部での研究と教育に携わった中での思い出はなんと云っても同僚や卒論生との素晴らしい一期一会の

出会いがあったことであります。農業からの逃避を企てていた私は今では農学部学生達の青春の輝きの中で過ごせたことを感謝しております。新卒者並びに同窓生の皆様、この大学で得られた体験を忘れず胸に秘めて、誠実に、しかもたくましく人生を謳歌していただきたいと思ひます。

最近の国立大学をめぐる状況は厳しく、独立法人への移行もスケジュールに乗せられようとしております。大学教育の原点を忘れること無く、叡智でもって困難を乗り越え、名古屋大学農学部・生命農学研究科が益々発展することを祈念します。長年御世話になった皆様に心から御礼申し上げます。

技術部について

技術部 鈴木道代

名古屋大学農学部同窓会の会員ではない技官の鈴木のところへ原稿の依頼があり、「なんでえ」という気持ちでした。しかし「待てよ、技術部が発足したことをお知らせしよう」ということで書きます。

教室系技術職員は平成3年4月に教育・研究の技術支援組織として、研究室付技官より独立しました(まだ乳離れしていない部分もあります)。技術部は3系・6班15人体制で組織しましたが、今は、定員削減が進み31名の技官(生物分子応答研究センター2名を含む)となりました。13年度2名が定年、多分新規採用1名で、14年度は30名となるでしょう(絶滅危惧種かな)。仕事は技術支援業務で、技術部要項に沿って講座、各種委員会、施設より依頼された業務を業務委員にかけ、共通部門を優先し、1人で複数業務を担当しています。まだまだのところもありますが頑張っていますのでよろしく(技術部室も開設しました)。詳細は「フロント

ランナー」を御覧下さい。

昨年7月13日に丹羽キミエさん(旧姓井平さん旧作物学研究室技官)が骨髄の病気でお亡くなりになりました。技術部より旧害虫研究室でアワヨトウの飼育をしてみえましたが、4月初めに入院され、5月に退院、6月に再入院でした。4月の農学部50周年記念事業には、出席されてみえました。御冥福をお祈りします。

鈴木(元、旧造林学・森林生態生理学研究室技官)は、またの名をもやしと言われました。昔は青豆もやし、今は大豆もやしとなってしまいました。顔のシワは日増しに深くなりましたが、頭のシワはノビつつあるようです。3月末で定年です。長い間有難うございました。

大学院生命農学研究科の同窓会の皆様の御健康と御発展をお祈り致します。

技官生活

人工気象室 神野雅宏

私も、人生60年間を送ってきたことにより、2002年の3月をもって定年退官することになりました。思えば40年前、農学部が安城に存在していたとき、最後の4、5年間を畜産学科の家畜生理学教室で勤めたことから、私の大学人生活が始まった。

同年齢時代の同級生の皆さんと研究ばかりではなく、私生活、遊びなんかも随分深くツキアイをしたと感動の思い出として残っています。草野球、将棋、麻雀、海水浴、登山、以後、魚釣り等私が始めて経験したこ

とも多くあり、それで縁が切れない人もあります。毎年の年賀状の同窓会の皆様方より20枚くらいは送って戴いています。

現教官の方々も、現状の[独法体制化]をどう乗り越えるか、研究面の超高速進歩に対する応答等が苦悩にならないよう、大変心配です。かといって家庭とか自分を忘れてしまうことにならないようにも気遣ってほしいものです。同窓会の皆様にも今後とも学生時代だけでなく、つながりある同窓会にしていきたいと思います。

卒業生の言葉

思い出がいっぱい

資源生物環境学科園芸科学研究分野 西出菜月

まず4年間の大学生活を通して、私を支えて下さった先生方、先輩方、友達、アルバイト先の方、そして家族に感謝したいと思います。私にこんな有意義な時間を与えてくれて、どうもありがとうございました。

何も考えずに暇な時間を楽しく、自分の好きなことをして過ごせた大学生活。中学、高校と常に勉強と部活に追われていた頃とは違い、この大学生活は私にとってあの頃頑張ったご褒美だったと思っています。そして、私を人間として成長させてくれた貴重な時間であったと思ひます。初めて一人暮らしをして人並みに料理

もできるようになりました。アルバイトもして社会に出る練習もしました。農場実習では作物を作る難しさと収穫の喜びを感じました。研究室では先輩に教えてもらいながらも、自分で計画を立てて実験を進めていくことに四苦八苦しました。金山でストリートライブをして色々な人と出会いました。海外にも初めて行きました。

就職活動も無事終わり、4月からは社会人になります。今からまた予想もつかないくらいの人と出会うことになるでしょう。その人達には私は胸を張って、自分の大学生活は充実してた、と言えます。そしてまた社会の中でもっともっと人間として成長していきたい。私を支えてくれる人達に感謝の気持ちを忘れないように。

卒業にむけて

応用生物科学科生物材料機械学研究分野 永倉健児

私は大学生活を振り返ってみてあまり満足できるものだったとは言えません。もっといろいろやっておけばよかったと思えることがたくさんあります。たしかに大学生活は高校生だった頃と違って開放感があり、毎日がとても刺激的で楽しいものでした。毎日楽しかったのですが、何かをやり遂げたような満足感を得ることができませんでした。私は4月から社会人になります。最近では毎日、社会人になったら何をしようかとあれこれ考えています。当然、大学生活とは異なりそんなに楽しく、自由なものではないかもしれませんが、でも社会人になったらできる限り大学生活での遅れを取り戻し、毎日を充実したものにし将来再び、私が自分の人生を振り返ったとき満足感と充実感あふれる毎日だったと振り返ることができるように努力したいと思います。

大学院生活を振り返って

応用分子生命科学専攻動物生殖制御学研究分野 荒川貴美子

私は3年間の研究生活を通じて様々な事を学んだと感じています。中でもセミナー発表の経験は貴重だったと思います。研究室に所属してから、研究室単位で行われるセミナー発表は私の憂鬱の種でした。はじめはただ、自分なりにまとめたものを原稿にして、ひたすら順番にうつつむいて説明するだけでした。時間を消化しているだけだったかもしれません。そんな中、私は先生からあるアドバイスを頂きました。「自分が担当の発表は、集まっている人にとって有意義な時間になるように自分でプロデュースしなくてはならない。相

手がどうやったら分かるか、相手の立場で考えながら発表準備に勤めなさい」と。その後、自分の発表前には、常に相手はこういうところが知りたいのではないかと、こういう風に説明したら納得してもらえるかも、と熟考してセミナーに望む様にしました。セミナー後、分かりやすかったと言う言葉を聞き手からもらえる事を目標にしながら。最終的に発表の場で、私が素晴らしい発表が出来る様になったかどうかは別として、相手の立場になって、準備し、行動する事は、セミナーだけに留まらず、実験時や社会生活における基礎として重要な学びだったと思います。私の至らない点を率直にアドバイスしていただいた恵まれたこの学舎で得た経験を糧にこれからも頑張っていきたいと思っています。

事務局だより

平成13年度農学部同窓会役員名簿

会長	福田 勝洋 (動物形態情報学)	789-4185
副会長	竹谷 裕之 (食糧生産管理学)	789-4041
	彌富 耿彦 関東支部	
	中井 昭彦 関西支部	
総務	横地 秀行 (生物材料機械学)	789-4156
	白武 勝裕 (園芸科学)	789-4027
会計	松林 嘉克 (生理活性物質化学)	789-5552
	山藤 貴史 (微生物学)	789-4090
名簿	大浦 由美 (森林資源利用学)	789-5036
ホームページ	上野山賀久 (動物生殖制御学)	789-4074
会報	門脇 辰彦 (多元情報制御)	789-5237
事務	服部 幸子 (生理活性物質化学)	789-5435
	瀬野恵美子	

記念樹は今(その3)

このシリーズ前回の保田名誉教授のお話によって、名大農学部の第1回卒業生(1955年)植樹の3本のメタセコイアの由来がほぼ解明された。つまり、一期生はメタセコイアを記念樹とすることに賛同し、その苗木(樹高1m足らず)が名大農学部造林学講座の高原末基教授を通じて東京大学付属清澄演習林からもたらされたということです。「生きている化石」の発見に世界中が沸いていた頃です。

中国奥地におけるメタセコイア現生種の発見以降の、世界における本種の拡散は急速です。1944年にはじめての標本採取、1948年の新種同定から、世界各地に種子が配布されるまでわずか数年しかたっていません。1949年に日本ではじめての苗木が東大小石川植物園と皇居吹上御殿に植えられました。本農学部には植樹されたのはこの6年後ということになります。

メタセコイアは丈夫で成長が早く、しかも挿木繁殖が容易ですので、急速に普及しました。現在各地の公園や学校などで時折見かけるメタセコイアの大木はこの頃に植えられたものでしょうか。最初に発見された自生地は四川省磨刀溪の1本は高さ29m以上、根回りが直径3.3mあり、推定樹齢450年、神木とされています。

(前同窓会長) 巽二郎

した。これから考えると条件が良ければ日本のメタセコイアはまだ大きく育ちそうです。

斎藤清明氏著の中公新書「メタセコイア」によると、「生きている化石」の発見から日本への導入までの経緯は次のようになっています。

1941年：三木茂博士(京大講師)が従来セコイア属またはヌマスギ属とされてきた粘土や亜炭内の圧縮化石標本を研究し、新属のメタセコイア属を設ける。

1941年：四川省の磨刀溪において南京大学干教授が村の道端で神木とされる巨木を見かける。

1944年：調査の依頼を受けた林務官の王が茎葉や球果を採取する。

1946年：干教授から検定依頼を受けた南京大学鄭教授が助手を派遣して標本を採取。

1946年：鄭教授が北京大学教授胡教授に鑑定を求める。

1948年：新種としてメタセコイア・グリプトストロボイデスと命名し記載される。絶滅新属とされていたメタセコイアの現生種であると同定。

1947年：ハーバード大学アーノルド樹木園のメリル教授の援助で磨刀溪の調査が行われ、南の湖北省にかけ

での広い地域で1000本以上の木を確認。また約1kgの種子を採集する。

1947～8年：アーノルド樹木園に種子が到着。カリフォルニア大学のチェイニー教授、東大の原助教授など世界各地に配布。

1948年：チェイニーが現地調査に入る。この新聞報道でDawn Redwoodという名前が使用される。

1949年：原は送られてきた種子を播種し、数本の苗を得る。この苗木3本を東大小石川植物園に植える。

1949年：チェイニーが天皇陛下に2年生の苗木1本と種子を献上する。苗木は吹上御苑に植えられる。

1950年：チェイニーから100本の苗木がメタセコイア保存会に送られる。これを東大はじめ各地にわける。うち4本が東大清澄演習林に配布される。

ところで、農学部同窓会報の「セコイア通信」という愛称について、会員の浅井武重氏（第八回農芸化学卒）から貴重なご意見をいただきました。それはセコイアとメタセコイアは別種の植物であり、混同をまねきかねないというご指摘でした。そこでこの機会に「セコイア通信」の愛称に至った経過を説明させていただきます。ご指摘のようにセコイアとメタセコイアは別種とされています。最大の違いはセコイアが常緑であるのに対してメタセコイアが落葉することです。セコイアはアメリカ西岸山脈に巨木が生育しており、材が

赤いのでRedwoodと呼ばれています。近接種としてこれも巨木のセコイアデンドロンがあります。

私はかつてセコイア国立公園でセコイアの森を見学する機会を得ましたが、全く圧倒されました。ジェネラル・シャーマンと呼ばれる最大の木は高さ83m、幹周り25mもあり樹齢は3500年ともいわれています。「セコイア通信」という愛称は、このすばらしい巨樹のセコイアのイメージと農学部の記念樹であるメタセコイアの名称をオーバーラップさせたものです。さらにセコイア樹の長寿と「不老町（農学部の住所）」ともオーバーラップさせています。植物学的には少々不正確ですがこれは愛称ということでお許しいただけないでしょうか。誤解を防ぐためにあるいは「せこいあ通信」とするのが良いのかもしれませんが。ちなみに「セコイア」はネイティブ・アメリカンのチェロキー族の酋長の名前に由来するそうです。前出の浅井氏によれば「太閤秀吉ゆかりの豊国神社のある中村公園に、1955年ころメタセコイア6本ほどとセコイア2本ほどが植樹されました。メタセコイアは元気ですが、セコイアは台風などの強風で枝が折れたりして、元気とは言えませんが、枯れずに育っています。」とのこと。セコイアとメタセコイアについての皆さまのご意見をお待ちしています。

人事異動（平成13年1月～12月まで）

日付	内容	官職	氏名	備考
平成13年				
1月1日	採用	助手	川崎通夫	
2月1日	昇任	助教授	白武勝裕	
2月1日	昇任	助教授	齋藤昇	
3月31日	辞職	教授	山下興重	中部大学へ
3月31日	辞職	教授	丹羽宏	
3月31日	退職	教授	梅村武夫	
3月31日	退職	教授	杉山達夫	理化学研究所へ
3月1日	昇任	教授	近藤忠雄	化学測定機器センター
3月31日	辞職	助教授	森上敦	中部大学へ
4月1日	併任	評議員	山木昭平	
4月1日	昇任	教授	竹中千里	
4月1日	採用	助手	村瀬潤	滋賀県立大学より
4月1日	昇任	教授	太田岳史	岩手大学助教授より
4月1日	転任	助教授	浅川普	農水省九州農業試験場より
4月1日	配置換	助手	山篠貴史	医学研究科助手より
4月1日	併任	学科長(応用生物科学科)	大澤俊彦	
6月16日	採用	助手	前田真一	
6月16日	採用	助手	松下泰幸	
7月1日	昇任	教授	前島正義	
7月1日	昇任	教授	小鹿一	
8月1日	昇任	講師	岩崎雄吾	
9月1日	採用	助教授	灘野大太郎	
9月1日	採用	助手	前尾健一郎	
9月1日	採用	助手	佐藤ちひろ	
11月1日	併任	附属山地畜産実験実習施設長	福田勝洋	
11月16日	採用	助手	塚田光	

同窓会寄付者リスト

本年度、農学部同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました、ありがとうございました

(敬称略)

中野 道孝 山田 邦夫 藤井 亮
浅井 武重 伊藤 昌樹 杉下五十男
小室 幸三 山崎 寿子 早田 孝司

服部 馨 堀内 美穂 安田 康
栗本 重夫 加藤 英和 金原 英次
沖森 泰行 小林 一清 日比野史夫
長谷川洋吉 大島 俊三 杉山 耕一
鈴木 智広 深田 卓朗 三浦 伸二
松原 功 久保田健靖 中垣 洋一
古澤 弘道 深沢 寿彦 鴨島 功

平成12年度 事業報告

1) 総会、講演会、懇親会の開催

平成12年6月10日 名古屋大学農学部において総会を行った。

総会後、林 和男(愛媛大学農学部教授、昭和45年林産学科卒業)による講演「地方大学から見た我が母校」を開催した。

総会終了後、名古屋大学グリーンサロン内“花の木”で懇親会を開催し親睦を深めた。

2) 農学部50周年記念事業への協力

上記事業に対する協力支援として、事務経費の補助、事務作業の分担、理事会の開催協力等に取り組んだ。

3) 卒業祝賀会の開催

平成13年3月25日に農学部談話室にて卒業祝賀会を開催した。樽酒を飲み交わしながら盛会のうちに終了した。

4) 同窓会名称(愛称)の公募

愛称募集の期限を延長し続けることとした。

5) 会報の発行

平成12年3月に発行した。

6) ホームページの作成と管理

同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかることとした。

7) 同窓会名簿の管理

名簿の充実と管理について改善に努めた。

平成13年度 事業計画

1) 総会の開催

平成13年4月28日 名古屋大学農学部において開催

本年度は、農学部50周年記念式典の日程に連動させて開催することとし、総会のみで開催とした。

2) 農学部50周年記念事業への協力

上記事業の活動に引き続き協力を行う。

3) 卒業祝賀会の開催

平成14年3月25日に農学部談話室にて開催予定

4) 会報の発行

平成14年3月の発行を基本とし、2回の場合は年度の中間に発行する。

5) ホームページの作成と管理

6) 同窓会名簿の管理

名古屋大学農学部同窓会 平成12年度決算

【収入の部】				
費目	金額	細目	金額	備考
会費等	7,871,000	永久会費	4,580,000	229名 [新入生135名]
		一般会費	2,670,000	534名
		寄付金	351,000	55名
		広告掲載費	135,000	9件
		会員録販売	135,000	27名
総会懇親会会費	48,000			16名
預金利息	1,310			
前年度繰越金	2,264,588	現金	102,929	
		貯金事務センター	354,280	
		郵便貯金	1,607,379	
合計	10,184,898			

【支出の部】				
費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	705,736	印刷費	461,816	クイックス印刷
		郵送費	243,920	
アルバイト代	1,152,872	2名		
総会・祝賀会	394,870	総会支給交通費	60,340	
		総会講演者謝礼	30,000	
		総会懇親会費	105,620	
		卒業祝賀会費(III)	92,000	
		卒業祝賀会費(III)	106,910	
50周年補助	243,920			郵送費補助
入会案内印刷費	73,500			生協印刷部
郵送費	86,585			
郵便振替手数料	65,390			
その他	20,000			50周年事業費付分
合計	2,742,873			

【残高】				
費目	金額	細目	金額	備考
残高合計	7,442,025			

名古屋大学農学部同窓会 平成13年度予算報告書

【収入の部】				
費目	金額	細目	金額	備考
会費等	5,535,000	永久会費	4,000,000	200名
		一般会費	1,000,000	200名
		寄付金	300,000	
		広告掲載費	135,000	9件
		会員録販売	100,000	20名
総会懇親会会費	48,000			16名
預金利息	1,000			
前年度繰越金	7,442,025			
合計	13,026,025			

【支出の部】				
費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,200,000	印刷費	500,000	クイックス印刷
		郵送費	700,000	
アルバイト代	600,000	1名		
総会・祝賀会	310,000	総会支給交通費	60,000	
		総会講演者謝礼	30,000	
		総会懇親会費	120,000	
		卒業祝賀会費	100,000	
入会案内印刷費	5,000			
郵送費	100,000			
郵便振替手数料	50,000			
合計	2,265,000			

【残高】				
費目	金額	細目	金額	備考
残高合計	10,761,025			

不明リスト

学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	
応用生	1997	江口 邦臣		食品工	1983	水谷 裕子(谷口)		畜産学	1976	野原 朋子		
	1997	佐合章太郎			1984	長谷川優子(福岡)			1977	松田 洋一		
	1997	山口 重矢			1984	陳 劍華			1978	皆川 招三		
	1997	大内 将司			1984	白井美智子(森山)			1978	斉藤 高弘		
	1997	津田 智彦			1985	山下 啓子(深見)			1978	大橋 一男		
	1997	福地英里子			1985	山口 幸代(飯田)			1978	渡辺 健次		
	1998	金廣 伸也			1985	日比 美幸(小池)			1981	デッカー京子(大野)		
	1998	坂本 俊平			1986	近藤由美子(松浦)			1981	市原 真司		
	1998	山田千佳子			1986	榊原 靖子			1981	田辺 敬雄		
	1998	小酒井紀詠			1986	小原 淳子			1982	笠川 一彦		
	1998	谷口 淳也			1986	杉浦 純子			1982	中山八千代(杉山)		
	1998	土屋 知寛			1986	西原 恵司			1982	本澤 幹央		
	1998	土屋 佳弘			1987	山田 浩二			1982	木野 勝敏		
	1998	畑中 真			1987	深水 美花			1983	関谷 典子(長坂)		
	1998	武田 拓也			1987	末光亜紀子			1984	宇佐美みなみ(大石)		
	資源生	1997	久保田泰生			1988	小川 武			1984	加藤 重夫	
		1998	伊藤 夢子			1989	加藤茂世美(浜田)			1985	加藤 政宏	
		1998	加々良幸伸			1989	山岸 公美(橋野)			1985	木野 美紀(須崎)	
		1998	関根 智宏			1990	永田 治			1987	伊瀬知義哉	
1998		近藤 誠		1990	加藤 由美(廣瀬)		1988	武田 豊				
1998		広戸誠一郎		1990	石川 裕二		1989	高木 智				
1998		三屋 史郎		1991	中瀬 昌之		1991	河上 真一				
1998		酒井 信孝		1992	織田 尚子		1993	吉田久美子				
1998		森部 頼子		1992	田中 誠		1993	柏谷 道子(伊藤)				
1998		川合 康洋		1993	山本 貢子		1995	近藤 真紀				
1998		朝倉 嘉子		1993	小尾 和代		農 学	1959	小島 博久			
1998		藤野 仁誠		1993	鈴木 徹司			1960	佐藤 宜由(信義)			
1998		白田 典子		1994	伊藤 幹人			1960	砂沢 裕寿			
1998		福山泰治郎		1994	梶 史生			1960	山岡 高志			
食品工		1972	近藤 守		1994	志賀 優子(藤原)			1960	松浦 光三		
		1972	荒谷 典子(本田)		1994	中山 光代			1961	佐藤伊久女(横山)		
		1972	小椋 通広		1994	平田奈都子			1961	糸賀 章		
		1973	早川 博久		1995	久保 博元			1961	杉山 範子		
		1974	宮木 茂		1996	佐野 敦志			1961	望月 秀哉		
	1975	野呂 伸一		生物機	1999	川瀬 麻由			1962	玉腰 直正		
	1976	内藤 幸雄			2001	増田 景子			1962	松原 秀夫		
	1976	鈴木 賢司		畜産学	1955	野村 京三			1962	青山 達敏		
	1978	吉田祐美子(山形)			1959	星川 耀			1962	多賀 正明		
	1978	酒井 幸造			1963	高橋 紀光			1962	中山 俊		
	1978	小野 敬一			1964	本田 博信(小野)			1962	土橋 拓至		
	1978	都築 紀代(若林)			1967	荒川 洋			1963	佐々木 社		
	1979	久世 佳子(柴垣)			1968	佐藤 一美			1964	下泉 進		
	1979	佐賀 健吾			1971	若松 増己			1964	吉川 文雄		
	1979	最上 理美(中尾)			1972	今井 博明			1964	春田 秀夫		
	1979	杉本はるみ(馬場)			1972	早川 秀夫		1964	宝蔵 統一			
	1979	中瀬 雅弘			1973	原井 康仁		1965	加納 実			
	1980	近藤 英男			1973	小林 泰子(横山)		1965	西沢 貞次			
	1980	黒川 恵子(河井)			1974	遠藤 結城		1966	榊原 正躬			
1981	Sunis Varun		1974		早川 和美		1967	丹羽 攻				
1981	土田 祥雄		1975		江口 敬子(吉田)		1968	富田 正行				
1982	水野 恭子(星野)		1975		小林 茂		1969	梶田 真司				
1983	社本 千尋(安達)		1975		池田 良忠		1969	青木 久宣				

学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名
農学	1970	深谷 潔		農芸化	1958	伊藤 正彦		農芸化	1971	福山 透	
	1971	古川 明夫			1958	大川 博徳			1971	木沢 昇	
	1971	足立総一郎			1959	武田 喜直			1972	羽多野 哲	
	1972	堀川 比敏			1960	伊藤 康			1972	梶野 武利	
	1973	久永 朝香(飯田)			1960	高崎 守雄			1972	関谷 夏緒(鶴野)	
	1973	平田 豊			1960	水野 信也			1972	亀岡 秀吉	
	1974	大桑 隆幸			1961	安田 勝彦			1972	広瀬 行博	
	1974	大矢 正雄			1961	近藤 哲夫			1972	松本 俊広	
	1975	角谷 純道			1961	武井 精剛			1972	神谷 一博	
	1975	西田 国広			1962	旭 健一			1972	石黒 寛己	
	1975	大矢由紀子(白井)			1962	吉井 和弘			1972	川口 正展	
	1976	三谷 真一			1962	吉野 豊			1972	長田 直人	
	1977	高橋 明夫			1962	後藤 鉄男			1972	内田 英司	
	1977	杉山 嘉彦			1962	向坂 正信			1972	武藤 公二	
	1977	丹下 秀樹			1962	小笠原致敬			1972	卜部 水紀(広瀬)	
	1977	塚本 弘二			1962	森 茂			1972	堀 兼明	
	1978	亀谷 浩典			1963	杉浦 裕彦			1972	木場 友人	
	1978	平松 真一			1963	大場 俊輝			1973	榎本 均	
	1979	安田 順子(山川)			1963	堀内 節夫			1973	近藤 鋼司	
	1979	森 樹代孝			1965	田中 宏			1973	松下 涼子(亀山)	
	1979	森川 晃秀			1965	梅田 洋充			1973	辻本 芳孝	
	1979	村田 裕子(伊藤)			1966	安井 弘美			1973	福田 修	
	1979	野本 靖夫			1966	安達 成昭			1974	奥山 功教	
	1980	三輪 秀明			1966	皆川 茂			1974	吉田 房子	
	1980	松村 修			1966	窪田 重行			1974	近藤 敦子(兵永)	
	1982	加藤 勇夫			1966	水谷 忠士			1974	高木 哲幸	
	1982	河合 譲			1966	大岩 仁志			1974	今井富美子(横尾)	
	1982	三浦 淳一			1966	野村 忠男			1974	青山 寛	
	1983	萩原 漢			1966	鈴木 秀樹			1974	中岡 孝郎	
	1984	富田 茂充			1968	高橋 稔明			1974	殿村 吉正	
	1985	碓氷 博臣			1968	山田 耕三			1974	藤井 智子(鶴見)	
	1985	竹内 啓祐			1968	青樹 和夫			1974	平野知佐子(寺尾)	
	1985	廣井 清貞			1968	池田 淳次			1974	片岡 孝郎	
	1986	佐竹 一志			1968	朝比奈 幸一郎			1975	岩田 光代	
	1986	三輪 直之			1968	田中 敦			1975	玉越 理仁	
	1986	芝山 弘			1968	平野 和政			1975	坂 恒豊	
	1987	星 昌博			1969	菰田 宏保			1975	坂野 光男	
	1987	中村 文昭			1969	佐藤 真			1975	中島 裕	
	1988	後藤 文和			1969	柴田 浩			1975	猪野 金利	
	1988	李 泰昊			1969	大島 正幸			1975	内山 佳子(村田)	
	1989	古畑 順子(加藤)			1969	藤川 昇			1975	平間 関吉	
	1990	羽生 充			1970	井野 元雄			1976	磯貝 正樹	
	1992	大西 寧子(久野)			1970	加藤 賢			1976	熊崎 雅之	
	1993	宮原 剛			1970	柳田 甫			1976	川崎 聖二	
	1993	柴村 一英			1970	高崎 康二			1976	土下 信人	
	1995	松木 佳子			1970	小坂井秀宣			1976	片野 民貴	
	1995	巢山 拓郎			1970	川野 俊弘			1977	門田 由美(竹中)	
	1996	河村 典之			1970	東条 孝夫			1977	伊藤 圭子(大田)	
	1996	荒田 幸一			1970	島中 幸一			1977	乾 秀樹	
	1996	小坂井 博			1971	横山 博夫			1977	国松 俊則	
	1996	大川 誠			1971	加藤 保			1977	山田 雄司	
	1996	飯田 和宏			1971	江口 保夫			1977	柴垣 英一	
	1996	友松利江子			1971	太田 誠一			1978	安藤 研司	
農芸化	1955	志知 均			1971	中野るり子(巽)			1978	近藤 祐司	

学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名
農芸化	1978	川路 浩子(鈴木)		農芸化	1994	藤原 崇晃		林産学	1974	井上 英三	
	1978	中根 真紀			1995	堀田 裕貴			1974	高田 光人	
	1978	中村 恵子(仁井)			1995	木村 紀子			1974	藤吉 公治	
	1978	林 昭子(近藤)			1996	山田 聡美			1975	山本 一郎	
	1978	藤田 定彦			1996	川口由利子			1975	柴田 芳孝	
	1979	栗尾 幸範			1996	川北 耕司			1975	小川 毅郎	
	1979	佐竹 由三			1996	藤本 一恵			1975	尾川 辰彦	
	1979	山田 和伸			1996	内山 靖智			1976	脇原 文雄	
	1979	住川 容子(杉山)		林学	1962	柳原 魁			1978	宮沢 照広	
	1979	内藤 三香(柴田)			1963	山垣 興三			1979	山口 和行	
	1980	榎本扶久子(石井)			1963	藤沢 利光			1979	石岡 雄哲(俊一)	
	1980	近藤千代子(野田)			1964	早川 政利			1980	一柳 恭平	
	1980	渡部 佳子(林)			1965	近藤 勝海			1980	岩崎 吉男	
	1980	萩原 順子(梅村)			1966	間野 康彦			1980	湯浅 邦弘	
	1980	野々山敦子(河谷)			1966	木村 幸市			1980	野田 清隆	
	1981	高橋 秀之			1967	桜井 正一			1981	梅本 秀司	
	1981	今井 宏			1968	松尾 学			1981	米田 恒孝	
	1981	杉山 茂樹			1970	三輪 克則			1981	林 和則	
	1981	平野 順子(秋本)			1970	神農 道用			1982	山田 直人	
	1982	岩見 雅史			1970	川原 黒			1982	堀田 順	
	1982	高橋 剛			1970	藤田 政博			1983	延原 政憲	
	1982	小島 哲男			1970	尾白 光司			1983	門間 求	
	1982	堀 博晴			1971	杉浦 豊雄			1984	杉浦 啓明	
	1983	曾我部仁志			1972	堀内 慎一			1984	竹尾 規子(近藤)	
	1983	大坪 一政			1973	寺本 和子(森田)			1984	鈴木 雅幸	
	1983	渡辺 博之			1974	井戸 泉			1986	古永 信治	
	1984	井上 理恵			1974	早川 博明			1986	今沢城太郎	
	1984	園田 正則			1975	加藤 純			1988	坂野 弘美	
	1984	山根 和彦			1975	須田 謙一			1988	石鷲見千秋(武田)	
	1984	大島 俊文			1976	三宅 大浄			1988	目次 政之	
	1985	高原 智子			1977	沖田 敦			1990	大澤 武彦	
	1985	小久保浩代			1978	坂下 利昭			1991	岩瀬 光代(米沢)	
	1985	長尾 敏弘			1978	藤森 悦朗			1991	宮部 陽子	
	1985	木村 哲哉			1978	林 健夫			1991	服部 貴	
	1986	小林 瑞穂(旗谷)			1979	小出 岳司			1993	松尾 祐子	
	1986	村上はるみ(青木)			1979	渡辺 徹			1994	加藤 智己	
	1987	井出 重明			1979	堀田 秋夫			1995	藤原 資士	
	1987	加藤 千枝			1980	瀬上 繁隆			1997	西 貴之	
	1988	岩野 清子			1982	山田 紀子(山中)	(学部不明)				
	1988	江崎恵利子(金田)			1985	井川 保志				Doan Them	
	1988	江田 聖子(中川)			1985	松本 哲生				伊藤 伸一	
	1988	中嶋 啓恵			1987	江坂 文寿				伊藤 嘉信	
	1988	有賀 洋子(木股)			1988	井口 邦夫				伊藤 賢介	
	1988	陸 紅美			1988	中村 義朗				井原 恵(栗田)	
	1989	稲沢あずさ			1990	磐城 洋介				永田 恭子	
	1989	棚瀬 智雄			1990	蛭川 路子				園田 雅俊	
	1989	平松 肇			1992	諸星富士子				塩見 邦博	
	1991	河合亜佐子(海野)			1992	城 康倫				奥田 京子	
	1991	江原 岳			1992	鷹野 宜則				横山 裕昭	
	1993	早川 伸樹			1996	渡邊 宏道				王 博仁	
	1993	鈴木 博之	林産学		1971	遠島 祥博				王 靖	
	1994	関根光太郎			1971	横山 路子(太田)				岡村 幸子	
	1994	吉開 真紀			1971	山田 善宣				岡田 邦彦	
	1994	吉野 庄子			1972	深見 多一				加藤 靖浩	

学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名	学部専攻	学部西暦	姓名	旧姓名
		加藤 彰				山崎 真嗣				中畝 誠	
		加藤 秀正				山田 勝司				中西 華代	
		家田 照子				山田 慎				中川 幸則	
		河村 千恵				山本 奈美				中川 泰治	
		河野 智謙				山本 昇				中村 敏英	
		梶原 英之				山本 奈美				中村 智恵美	
		寒川 武人				時下 進一				中村 滋	
		関 利之				手島かおる				長袋 昭	
		吉岡エリザ				小栗 康子				長澤 真紀	
		吉田 直子				小谷 弘一				辻 一郎	
		吉田 正夫				小野 雅昭				程 栄助	
		久保ゆかり				小野 鉄雄				田口小百合	
		玉生 征人				小林 直樹				田中 公子	
		玉置 雅紀				松元 靖典				田島 理恵	
		近藤 貞昭				松本 朗				田頭 栄子	
		金子 美幸				松野 寛				渡部 則充	
		金子 弥生				上谷 友及				渡部 健	
		熊谷 剛				上田 晶子(高林)				藤井 辰也	
		犬飼 義明				植村 潤				南 尚子(石井)	
		原 博				森 泉				入江 研	
		原 康郁				神谷 幸宏				百瀬 祐子(堀内)	
		古市 卓也				菅井 晴雄				福岡 秀幸	
		呉 政道				世古 博文				瀬沢 聡子	
		後藤 彰				星野 大介				文屋 千代	
		幸池 浩子				生川 淑子				平野 吉夫	
		高 泰松				生田 英二				片岡 裕紀	
		高橋 宏二				青山 桂輔				北島 克己	
		高見 智香				石井 祐子				牧 信安	
		高田 正義				石川 信之				牧本 卓史	
		高部 恵理子				石田 裕幸				堀 顕三	
		黒田 幸好				石田 治				堀田 将司	
		佐橋 信哉				赤野 友美				本田 直輝	
		佐藤 広一				川口 信子				木全 雅也	
		斎藤 俊和				川口 信子				目加田和之	
		細川 誠二郎				川森 郁郎				野村 美加	
		榊原 正樹				川村 智美				藪内 光人	
		三ツ谷 良男				川路 博志				用稲 真人	
		三浦 友子				浅沼 修一				立川 隆康	
		三家 昭典				大河 浩				林 奕輝	
		三宮 一幸				大関 泰裕				鈴木 一浩	
		三島 普範				大宮 隆裕				鈴木 満	
		三木 祐子(佐野)				大沢 淳				鈴木 康生	
		三輪 教子(小倉)				大島 健司				鈴木 智広	
		山下 泰恒				大矢 友子				鈴木 正昭	
		山口 剛生				知島 紀和(小田原)				和泉 涼子	
		山口 弘毅				池田 彩子					

バイオサイエンス分野のサポートで 奉仕する(株)カークです

取扱品
研究用試薬・工業薬品・体外診断用検査薬
理化学用分析機器・ディスプレイ製品 etc

カスタムメイドサービス
受託合成DNA・受託電子顕微鏡解析



Tel. 052-971-6533 Fax. 052-972-7295
Home page: <http://www.cahc.co.jp>
(旧社名:名古屋片山化学株式会社)

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具
主要取扱メーカー

久保田製作所	トミー精工
東京理化	タイテック
マリソル	日本エイド
佐久間製作所	岩城硝子
三洋メディカ	アトバンテック
三立科学	アト



株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事1丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117

BIOの未来に夢と希望を！ 機材と試薬のご用命は理科研へ

RIKAKEN CO., LTD.
理科研株式会社

本社/名古屋市守山区元郷二丁目107番地
〒463-8528 TEL(052)798-6151 FAX(052)798-6157
支店・営業所/東京・つくば・柏・神奈川・静岡・岐阜・津・四日市

<http://www.rikaken.co.jp>

理化学器械・光学器械・分析器械・ガラス器具一般

特約代理店

オリンパス光学・三洋電機(株)
ヤマト科学(株)・東亜電機(株)
(株)佐久間・(株)岩城硝子

合資会社 木下理化

〒466-0035
名古屋昭和区松風町1丁目32番の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約6000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同期会の通知などにご利用下さい。

なお、費用は1ワク1万5千円です。詳しくは、同窓会事務局まで。

和光純薬



和光純薬は世界を究める
未来を見つめて製造しています。

- 試薬
- 医薬品
- 化粧品

和光純薬工業株式会社

本社 東京都中央区本町2-1-1
支店 大阪府大阪市東淀川区東中島2-1-1
支店 愛知県名古屋市中区栄3-1-1
支店 福岡県福岡市東区東区1-1-1